



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	これからの復興に向けて - 環境創造センターの概要
Alternative_Title	The role of the Center for Environmental Creation toward Fukushima environment restoration. Introduction of initiatives from constituted bodies of the Center for Environmental Creation - Towards the future revitalization. Overview of the Center for Environmental Creation
Author(s)	佐藤 弘美(福島県環境創造センター) Sato, H.(Fukushima Prefectural Center for Environmental Creation)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.121 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	企画セッション 2:「福島の実環境回復に向けた環境創造センターの役割」
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109536
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



「福島環境回復に向けた環境創造センターの役割」

第1部 環境創造センター構成機関からの取組みの紹介

KS2-1 これからの復興に向けて ～環境創造センターの概要～

佐藤 弘美（福島県環境創造センター副所長）

東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一発電所事故から5年余りが経過した。福島は、国内外の多くの方々から、たくさんの心温まるご支援をいただきながら、一步一步着実に復興の歩みを進めている。一方で、今なお、多くの県民が避難生活を続けられており、避難地域の再生、風評・風化対策などの課題も山積している。

県では、環境回復を福島復興の要の一つと位置づけ、ふくしまの環境回復・創造に向けた総合的な拠点として環境創造センターの整備を進めている。

昨年10月、環境創造センターの「本館」（三春町）と、センターの出張所であり原子力発電所周辺の空間放射線の常時監視等を担う「環境放射線センター」（南相馬市）が、活動を開始した。

今年3月には「研究棟」が完成し、4月以降、原子力に関する総合的な研究機関である日本原子力研究開発機構と、環境研究に関する中核的存在である国立環境研究所に、順次、この研究棟に入居していただき活動を行っている。

来る7月21日には、子どもから大人まで放射線について学ぶことができる展示室、360度全球型シアターなどを備えた「交流棟（コミュタン福島）」が開所となるグランドオープン式典を実施する。

環境創造センターは、「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」、「教育・研修・交流」の4つの機能を有している。

福島の復興に向けては、国内外を問わず世界の英知を結集して、様々な取組を積極的に進めるため、今後とも、研究棟に招致した日本原子力研究開発機構、国立環境研究所をはじめ、世界的な機関であるIAEAや大学等とも緊密に連携しながら、美しく豊かで、誇りある「ふくしま」を再生し、未来を切り開くため、直面する課題に挑戦していく。